

京都にVCが相次ぎ拠点を設ける

京都にベンチャーキャピタル(VC)が相次ぎ拠点を設ける動きが加速し、京都版ビットバレーを作るべく動きを始めている。東京渋谷でスタートアップ集積のビジネス展開が成功したことも、動きを加速している一因だ。

＜解説＞イーストベンチャーズというVCはM&A仲介会社と共同で四条烏丸にオフィスを開設することを決定した。関西の学生や若手起業家向け10社に投資をする予定だ。これと別に、独立系のスカイランドベンチャーズも他のVCと共同で京大吉祥田キャンパス内に拠点を設ける。年間10社の投資を目論む。入居するスタートアップの人的

VCの京都進出が相次ぐ		
VC名	立地や狙い	時期
グローバルブレイン	京都駅の周辺 京都大学発の企業 など発掘	23年4月
ザシード キャピタル	京都大学の周辺 起業に興味のある 学生のコミュニ ティー構築	24年3月
スカイランド ベンチャーズ	京都大学の周辺 学生起業家らへの 出資	24年4月
イースト ベンチャーズ	四条烏丸の周辺 学生起業家らへの 出資	24年6月 ごろ

(注)グローバルブレイン以外は他社と共同進出



交流を媒介するマネジャーも常勤する。これらのVCは既に東京渋谷で同様の事業をスタートさせ、一定の成果を挙げている。スタートアップ企業の立ち上がりは非常に困難を極める。まず、場所の確保から始まる。実績のない企業なので、なかなか適当な場所を貸してくれる事業者が少ない。アクセスの悪い場所ならあるかもしれないが、人との交流は大事なので、どうしても交通の便のいい場所となると、なかなか貸し手がない。次には資金手当て。金融機関からの融資は、実績がないので、まず望めない。仮に融資を受けられたとして

も、多額の融資は難しい。また、すぐに返済が始まると返済原資の捻出が困難だ。VCからの投資は、投資だから将来のリターンでカバーできる。一定期間の猶予もある。渋谷で成功したビジネスモデルを京都にも持ち込む。京都市内には40以上の大学があり、人口の10%を学生が占めるといふ、日本でも稀な学生集積都市だ。さらに、最近では企業の立ち上げ教育を大学の授業や講義の中で行っている。国の施策もその方向に舵を切っている。若い年代の学生たち



が考えるアイデアは、すぐに事業化は難しいものもあるが、大人が気付かない視点で社会的な課題を解決することを目的としたものが多い。これらはすぐに収益を生むものより、長い目で見ないといけないビジネスモデルが多い。京都では既に技術系、製造業系のスタートアップがいくつか立ち上がっているが、IT系のスタートアップ企業は少ない。過去には、京都で立ち上がったが、一定の規模になり成功を収めると東京に移ってしまったスタートアップも多くあったこれらのVCが投資するスタートアップ企業のなかから、京都版ビットバレーの成功を象徴するような企業が生まれることを期待したい。